

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月14日

【四半期会計期間】 第84期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 スターゼン株式会社

【英訳名】 Starzen Company Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 横 田 和 彦

【本店の所在の場所】 東京都港区港南二丁目5番7号

【電話番号】 03(3471)5521(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理本部長 森 上 倫 輔

【最寄りの連絡場所】 東京都港区港南二丁目5番7号

【電話番号】 03(3471)5521(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理本部長 森 上 倫 輔

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次                         |       | 第83期<br>第3四半期<br>連結累計期間      | 第84期<br>第3四半期<br>連結累計期間      | 第83期                        |
|----------------------------|-------|------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 会計期間                       |       | 自 2021年4月1日<br>至 2021年12月31日 | 自 2022年4月1日<br>至 2022年12月31日 | 自 2021年4月1日<br>至 2022年3月31日 |
| 売上高                        | (百万円) | 291,276                      | 328,618                      | 381,432                     |
| 経常利益                       | (百万円) | 8,029                        | 8,850                        | 9,165                       |
| 親会社株主に帰属する<br>四半期(当期)純利益   | (百万円) | 5,607                        | 6,267                        | 5,984                       |
| 四半期包括利益又は<br>包括利益          | (百万円) | 5,414                        | 6,156                        | 6,189                       |
| 純資産額                       | (百万円) | 63,227                       | 68,940                       | 64,001                      |
| 総資産額                       | (百万円) | 152,103                      | 164,672                      | 142,428                     |
| 1株当たり四半期(当期)<br>純利益        | (円)   | 288.05                       | 321.72                       | 307.37                      |
| 潜在株式調整後1株当たり<br>四半期(当期)純利益 | (円)   | -                            | -                            | -                           |
| 自己資本比率                     | (%)   | 41.6                         | 42.0                         | 45.1                        |

| 回次          |     | 第83期<br>第3四半期<br>連結会計期間       | 第84期<br>第3四半期<br>連結会計期間       |
|-------------|-----|-------------------------------|-------------------------------|
| 会計期間        |     | 自 2021年10月1日<br>至 2021年12月31日 | 自 2022年10月1日<br>至 2022年12月31日 |
| 1株当たり四半期純利益 | (円) | 122.79                        | 164.79                        |

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、ウィズコロナの下で、景気に緩やかながら持ち直しの動きが見られました。しかしながら、世界的な金融引締め等による海外景気の下振れが我が国の景気を下押しする可能性があり、また物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動、中国における感染動向による影響も予想され、先行きについては不透明な状況が続いております。

食肉業界は、食肉消費が落ち着きを見せ始めるとともに食肉輸入価格や飼料価格、エネルギーコストが高騰しつづけるなど、厳しい環境が継続しております。

このような状況の中、当社グループはコロナ禍においても品質管理ならびに衛生管理を徹底するとともに柔軟な勤務体制等の対策を講じ、社員の安全確保に配慮しつつお客様のご要望にお応えしてまいりました。

また、『「収益力強化」に向けた「体質改善」』のテーマのもと、さらなる成長を遂げるための施策に取り組んでまいりました。新たな取り組みとしては、株式会社大商金山牧場と資本業務提携契約を締結いたしました。本資本業務提携をきっかけに互いの商品をそれぞれのネットワークを通じて販売することや、商品の共同提案、将来的には両社の拠点・機能・人的資源の共同活用による事業効率化等を図り、ひいては両社の企業価値向上を目指します。加えて、日本屈指の輸出認定工場である(株)阿久根食肉流通センター及びスターゼンミートプロセッサー(株)阿久根工場ビーフセンターの拡張工事が完了し、今後、牛肉の輸出を拡大してまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は328,618百万円（前年同四半期比12.8%増）、営業利益は7,123百万円（前年同四半期比12.5%増）、経常利益は8,850百万円（前年同四半期比10.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,267百万円（前年同四半期比11.8%増）となりました。

事業部門別の営業概況は、次のとおりです。

##### < 食肉関連事業 >

食肉関連事業の売上高は326,477百万円（前年同四半期比12.9%増）となりました。

また、部門別の業績は次のとおりです。

##### （食肉）

国内事業は、国産食肉の販売が堅調に推移したことから取扱量は前年同四半期を上回りました。売上高は、取扱量の増加に加え輸入食肉の国内相場高値推移等により前年同四半期を大きく上回りました。売上総利益は、国産牛肉を中心に利益確保が進み前年同四半期を上回りました。

また、カテゴリー別の業績は次のとおりです。

国産食肉は、各畜種ともに販売が堅調に推移し、取扱量、売上高ともに前年同四半期を上回りました。売上総利益は行動制限の緩和による観光地・行楽地での外食需要の回復等により、相対的に利益率の高い国産牛肉で特に取扱量が増加したこと、国産牛肉相場が前年同四半期を下回る水準で推移したこと、加えて販売機会ロスの削減や早期販売を意識した在庫コントロールが功を奏したことなどから前年同四半期を大きく上回りました。

輸入食肉は、牛・豚肉で取扱量を確保したものの、輸入価格高騰等の影響により鶏肉の取扱量が減少したことから、全体の取扱量は前年同四半期を下回りました。売上高は、国内相場が高値推移したことから前年同四半期を大きく上回りました。売上総利益は、鶏肉で取扱量の減少に伴い利益も減少したものの、需要に合わせた調達の徹底やコスト上昇分を可能な限り販売価格へ転嫁したことなどから牛・豚肉で利益を確保でき、全体では前年同四半期を上回りました。

輸出事業は、米国向け牛肉輸出が低関税輸入枠超過による関税引き上げの影響で低迷したものの、欧州や台湾、

東南アジア向けを中心に好調に推移したことから、輸出重量は前年同四半期比横ばいとなりました。売上高は輸出単価の高い欧州向けが好調だったことなどから前年同四半期を上回りました。

これらの結果、食肉部門の売上高は257,824百万円（前年同四半期比12.2%増）となり、売上総利益は前年同四半期を上回りました。

（加工食品）

加工食品は、一部取引先向けのハンバーグ商品群で取扱量が減少しましたが、食肉スライス商品、ローストビーフ関連商品等の販売が堅調に推移し、全体では取扱量、売上総利益ともに前年同四半期を上回りました。売上高は、原材料コストやエネルギーコストの上昇を踏まえた商品価格改定等により57,548百万円（前年同四半期比17.2%増）と前年同四半期を大きく上回りました。

（ハム・ソーセージ）

ハム・ソーセージは、外食向け商品の販売が回復傾向で推移しましたが、小売業態向けの販売が落ち着きを見せ、取扱量は前年同四半期を下回りました。売上高は加工食品と同様に商品価格改定により9,555百万円（前年同四半期比7.0%増）と前年同四半期を上回り、売上総利益も販売条件の変更等により前年同四半期を上回りました。

（その他）

その他の取扱品につきましては、売上高は1,549百万円（前年同四半期比3.5%増）となりました。

<その他の事業>

その他の事業につきましては、売上高は2,140百万円（前年同四半期比4.8%増）となりました。

財政状態

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末と比べて、20,791百万円増加し、114,363百万円となりました。これは、主として受取手形及び売掛金、商品及び製品、前渡金が増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べて、1,459百万円増加し、50,289百万円となりました。これは、主として投資有価証券が増加したことによるものであります。

この結果、総資産では、前連結会計年度末に比べて、22,244百万円増加し、164,672百万円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末と比べて、11,854百万円増加し、66,974百万円となりました。これは、主として短期借入金が増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べて、5,450百万円増加し、28,757百万円となりました。これは、主として長期借入金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計では、前連結会計年度末に比べて、17,305百万円増加し、95,731百万円となりました。

（純資産）

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて、4,938百万円増加し、68,940百万円となりました。

(2) 優先的に取り組む対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当第3四半期連結累計期間において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は60百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

| 種類   | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 44,000,000  |
| 計    | 44,000,000  |

###### 【発行済株式】

| 種類   | 第3四半期会計期間末<br>現在発行数(株)<br>(2022年12月31日) | 提出日現在<br>発行数(株)<br>(2023年2月14日) | 上場金融商品取引所名<br>又は登録認可金融<br>商品取引業協会名 | 内容                   |
|------|---|---------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 19,522,552                              | 19,522,552                      | 東京証券取引所<br>プライム市場                  | 単元株式数は100株<br>であります。 |
| 計    | 19,522,552                              | 19,522,552                      |                                    |                      |

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日                        | 発行済株式<br>総数増減数<br>(千株) | 発行済株式<br>総数残高<br>(千株) | 資本金増減額<br>(百万円) | 資本金残高<br>(百万円) | 資本準備金<br>増減額<br>(百万円) | 資本準備金<br>残高<br>(百万円) |
|----------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 2022年10月1日～<br>2022年12月31日 | -                      | 19,522                | -               | 11,658         | -                     | 7,590                |

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2022年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年9月30日現在

| 区分             | 株式数(株)                  | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------|----------|----|
| 無議決権株式         |                         |          |    |
| 議決権制限株式(自己株式等) |                         |          |    |
| 議決権制限株式(その他)   |                         |          |    |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式)<br>普通株式 35,600 |          |    |
| 完全議決権株式(その他)   | 普通株式 19,304,400         | 193,044  |    |
| 単元未満株式         | 普通株式 182,552            |          |    |
| 発行済株式総数        | 19,522,552              |          |    |
| 総株主の議決権        |                         | 193,044  |    |

(注) 単元未満株式には、当社所有の自己株式5株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

| 所有者の氏名<br>又は名称        | 所有者の住所         | 自己名義<br>所有株式数<br>(株) | 他人名義<br>所有株式数<br>(株) | 所有株式数の<br>合計(株) | 発行済株式<br>総数に対する<br>所有株式数<br>の割合(%) |
|-----------------------|----------------|----------------------|----------------------|-----------------|------------------------------------|
| (自己保有株式)<br>スターゼン株式会社 | 東京都港区港南二丁目5番7号 | 35,600               |                      | 35,600          | 0.18                               |
| 計                     |                | 35,600               |                      | 35,600          | 0.18                               |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

|             | 前連結会計年度<br>(2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間<br>(2022年12月31日) |
|-------------|-------------------------|-------------------------------|
| <b>資産の部</b> |                         |                               |
| 流動資産        |                         |                               |
| 現金及び預金      | 11,172                  | 13,066                        |
| 受取手形及び売掛金   | 31,533                  | 3 40,598                      |
| 商品及び製品      | 32,115                  | 36,866                        |
| 仕掛品         | 437                     | 448                           |
| 原材料及び貯蔵品    | 2,294                   | 2,302                         |
| 前渡金         | 12,218                  | 16,793                        |
| その他         | 3,811                   | 4,301                         |
| 貸倒引当金       | 10                      | 14                            |
| 流動資産合計      | 93,572                  | 114,363                       |
| 固定資産        |                         |                               |
| 有形固定資産      |                         |                               |
| 建物及び構築物（純額） | 12,896                  | 12,734                        |
| 土地          | 10,531                  | 10,531                        |
| その他（純額）     | 5,417                   | 5,251                         |
| 有形固定資産合計    | 28,845                  | 28,516                        |
| 無形固定資産      |                         |                               |
| その他         | 1,952                   | 2,600                         |
| 無形固定資産合計    | 1,952                   | 2,600                         |
| 投資その他の資産    |                         |                               |
| 投資有価証券      | 15,940                  | 17,401                        |
| その他         | 2,091                   | 1,771                         |
| 投資その他の資産合計  | 1 18,032                | 1 19,172                      |
| 固定資産合計      | 48,829                  | 50,289                        |
| 繰延資産        | 25                      | 18                            |
| 資産合計        | 142,428                 | 164,672                       |



(単位：百万円)

|               | 前連結会計年度<br>(2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間<br>(2022年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| <b>負債の部</b>   |                         |                               |
| 流動負債          |                         |                               |
| 買掛金           | 16,953                  | 20,188                        |
| 短期借入金         | 10,847                  | 21,964                        |
| 1年内償還予定の社債    | 2,100                   | -                             |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 9,589                   | 9,086                         |
| 未払法人税等        | 1,825                   | 964                           |
| 賞与引当金         | 1,652                   | 797                           |
| その他           | 12,151                  | 13,972                        |
| 流動負債合計        | 55,119                  | 66,974                        |
| 固定負債          |                         |                               |
| 社債            | 5,000                   | 5,000                         |
| 長期借入金         | 13,643                  | 19,124                        |
| 退職給付に係る負債     | 2,051                   | 2,066                         |
| 債務保証損失引当金     | 190                     | 281                           |
| その他           | 2,421                   | 2,284                         |
| 固定負債合計        | 23,306                  | 28,757                        |
| 負債合計          | 78,426                  | 95,731                        |
| <b>純資産の部</b>  |                         |                               |
| 株主資本          |                         |                               |
| 資本金           | 11,658                  | 11,658                        |
| 資本剰余金         | 12,508                  | 12,504                        |
| 利益剰余金         | 38,101                  | 43,103                        |
| 自己株式          | 105                     | 52                            |
| 株主資本合計        | 62,163                  | 67,213                        |
| その他の包括利益累計額   |                         |                               |
| その他有価証券評価差額金  | 1,741                   | 1,974                         |
| 繰延ヘッジ損益       | 441                     | 230                           |
| 為替換算調整勘定      | 145                     | 177                           |
| 退職給付に係る調整累計額  | 20                      | 6                             |
| その他の包括利益累計額合計 | 2,016                   | 1,914                         |
| 非支配株主持分       | 177                     | 187                           |
| 純資産合計         | 64,001                  | 68,940                        |
| 負債純資産合計       | 142,428                 | 164,672                       |

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

|                     | 前第3四半期連結累計期間<br>(自2021年4月1日<br>至2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間<br>(自2022年4月1日<br>至2022年12月31日) |
|---------------------|--|--|
| 売上高                 | 291,276                                      | 328,618                                      |
| 売上原価                | 263,463                                      | 298,745                                      |
| 売上総利益               | 27,812                                       | 29,872                                       |
| 販売費及び一般管理費          | 21,479                                       | 22,749                                       |
| 営業利益                | 6,333  | 7,123  |
| 営業外収益               |  |  |
| 受取利息                | 0  | 2  |
| 受取配当金               | 110  | 479  |
| 持分法による投資利益          | 757  | 873  |
| 不動産賃貸料              | 238  | 178  |
| 受取保険金及び配当金          | 406  | 408  |
| 補助金収入               | 278  | 299  |
| その他                 | 309  | 341  |
| 営業外収益合計             | 2,103  | 2,583  |
| 営業外費用               |  |  |
| 支払利息                | 195  | 491  |
| 不動産賃貸費用             | 104  | 91   |
| その他                 | 107  | 272  |
| 営業外費用合計             | 406  | 855  |
| 経常利益                | 8,029  | 8,850  |
| 特別利益                |  |  |
| 固定資産売却益             | 13   | 0  |
| 投資有価証券売却益           | 41   | 2  |
| 特別利益合計              | 54   | 3  |
| 特別損失                |  |  |
| 固定資産売却損             | 1  | -  |
| 固定資産除却損             | 38   | 16   |
| 減損損失                | 12   | 17   |
| 特別損失合計              | 51   | 33   |
| 税金等調整前四半期純利益        | 8,032  | 8,820  |
| 法人税、住民税及び事業税        | 1,939  | 2,253  |
| 法人税等調整額             | 486  | 308  |
| 法人税等合計              | 2,425  | 2,561  |
| 四半期純利益              | 5,606  | 6,258  |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失( ) | 1  | 9  |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益    | 5,607  | 6,267  |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

|                  | 前第3四半期連結累計期間<br>(自 2021年4月1日<br>至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間<br>(自 2022年4月1日<br>至 2022年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 四半期純利益           | 5,606  | 6,258  |
| その他の包括利益         |  |  |
| その他有価証券評価差額金     | 179  | 231  |
| 繰延ヘッジ損益          | 72   | 670  |
| 為替換算調整勘定         | 46   | 249  |
| 退職給付に係る調整額       | 10   | 8  |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 4  | 78   |
| その他の包括利益合計       | 191  | 101  |
| 四半期包括利益          | 5,414  | 6,156  |
| (内訳)             |  |  |
| 親会社株主に係る四半期包括利益  | 5,415  | 6,166  |
| 非支配株主に係る四半期包括利益  | 1  | 9  |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

|          | 前連結会計年度<br>(2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間<br>(2022年12月31日) |
|----------|-------------------------|-------------------------------|
| 投資その他の資産 | 63百万円                   | 57百万円                         |

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

|                 | 前連結会計年度<br>(2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間<br>(2022年12月31日) |
|-----------------|-------------------------|-------------------------------|
| 株式会社阿久根食肉流通センター | 1,680百万円                | 1,570百万円                      |
| 株式会社栗原農場        | 970 "                   | 883 "                         |
| 株式会社雲仙有明ファーム    | 852 "                   | 776 "                         |
| 北海道はまなか肉牛牧場株式会社 | 625 "                   | 660 "                         |
| 足寄旭ヶ丘牧場株式会社     | 449 "                   | 536 "                         |
| 彩ファーム株式会社       | 577 "                   | 491 "                         |
| その他             | 554 "                   | 470 "                         |
| 計               | 5,711百万円                | 5,388百万円                      |

3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

|      | 前連結会計年度<br>(2022年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間<br>(2022年12月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------------|
| 受取手形 | - 百万円                   | 40百万円                         |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

|         | 前第3四半期連結累計期間<br>(自 2021年4月1日<br>至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間<br>(自 2022年4月1日<br>至 2022年12月31日) |
|---------|--|--|
| 減価償却費   | 2,251百万円                                       | 2,165百万円                                       |
| のれんの償却額 | 6 "  | - "  |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

配当金支払額

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(百万円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日        | 効力発生日      | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2021年6月29日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 1,267           | 130.00          | 2021年3月31日 | 2021年6月30日 | 利益剰余金 |

(注)当社は2021年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、「1株当たり配当額」は当該株式分割前の配当金の額を記載しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

配当金支払額

| 決議                   | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(百万円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日        | 効力発生日      | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|-------|
| 2022年6月29日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 1,265           | 65.00           | 2022年3月31日 | 2022年6月30日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

当社グループは、生産肥育から食肉の処理加工、製造、販売に至るまでの事業を主に国内で行う「食肉関連事業」を中心に事業活動を展開しており、報告セグメントは「食肉関連事業」のみであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(収益認識関係)

当社グループは、食肉関連事業を主要な事業としており、食肉関連事業の売上高以外の重要性が乏しいため、顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目                               | 前第3四半期連結累計期間<br>(自 2021年4月1日<br>至 2021年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間<br>(自 2022年4月1日<br>至 2022年12月31日) |
|----------------------------------|--|--|
| 1株当たり四半期純利益                      | 288円05銭  | 321円72銭  |
| (算定上の基礎)                         |  |  |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)            | 5,607  | 6,267  |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円)                | -  | -  |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する<br>四半期純利益(百万円) | 5,607  | 6,267  |
| 普通株式の期中平均株式数(株)                  | 19,467,857                                     | 19,483,058                                     |

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月14日

スターゼン株式会社  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

東京事務所  
指定有限責任社員  
業務執行社員  
公認会計士 伊藤 栄 司

指定有限責任社員  
業務執行社員  
公認会計士 宮 沢 琢

#### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているスターゼン株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、スターゼン株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

#### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認

められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。